

# 週間感染症情報

2020年24-25週 2020年6月8日より2020年6月21日まで

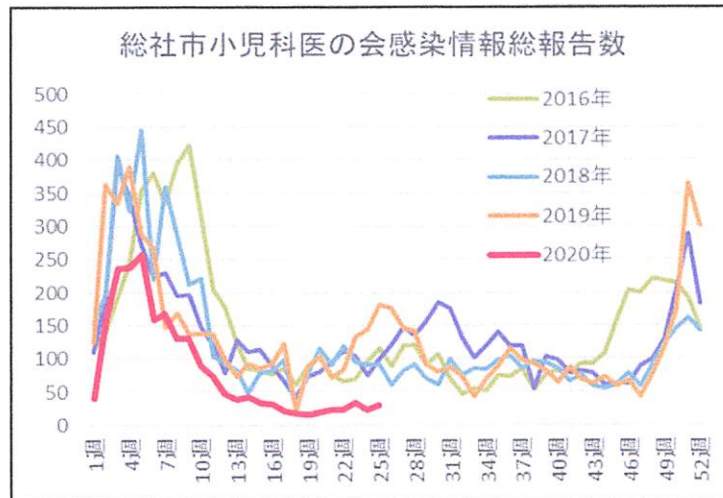
24週 25週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)		
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	1	6
手足口病		
ヘルパンギーナ		
伝染性紅斑	1	
感染性胃腸炎	14	15
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹	4	8
伝染性膿痂疹(とびひ)	3	
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症		
RSウイルス感染症		
マイコプラズマ感染症		
ヒトメタニューモウイルス		
インフルエンザ(臨床診断含む)		
インフルエンザA		
インフルエンザB		

下のグラフの様に感染症は非常に少ないです。14週からの報告数は昨年と同時期に比べて1/4になっています。5月末より学校が再開されましたが、増加していません。手洗いやマスクの着用など感染症対策と体調不良時は休むということの徹底で、集団の中での感染症の拡大が抑えられているのではと考えています。

バーベキューや焼き肉関連の細菌性胃腸炎の報告が増えています。病原性大腸菌O20 1例 O15 1例 O25 1例 O111 1例 いずれもベロ毒素は陰性でした。また、鳥刺しを食べた6年生、鳥のたたきを食べた幼児がカンピロバクター陽性でした。『腸管出血性大腸菌感染症注意報』が6月16日に発令されています。食中毒に注意しましょう。

世界の麻疹の状況は、ワクチン忌避の増加により悪化しています。2017年には11万人であった麻疹による死者が、2018年は14万人と増加しています。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、ワクチンを受けられない小児がさらに増加し麻疹の流行が起こっています。有効なワクチンがあり、2回接種することで予防できます。1歳になったらすぐに、年長さんもまだの方はできるだけ早くMRワクチンを接種して下さい。



## 世界の麻疹の状況 (2019.12.5WHO)

- 安全で費用対効果の高いワクチンがあるにもかかわらず、2018年には世界で **140,000人** が麻疹により死亡し、その多くは5歳未満の子どもたちでした。(2016年は世界での麻疹による死者が89,780人で10万人を下回った初めての年になりました。)
- 麻疹ワクチン接種により、2000年から2018年にかけて世界の麻疹死亡者数は**73%減少**しました
- 2018年には、世界の子どもたちの **86%** が最初の誕生日を迎えるまでに、定期接種を通じて麻疹ワクチンの第1回接種を受けました。接種率は2000年の72%から向上しました。
- 2000年から2018年の間に、麻疹ワクチン接種によって **2320万人の死亡が予防**できたと推計されました。麻疹ワクチンは公衆衛生における最も費用対効果の高い施策のひとつと言えます。

(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> )